



全国酸素部会新聞

発行 建交労 全国酸素部会機関紙部
大阪府堺市西区石津西町12番



TEL 072-241-6660

メール zenkoku.sanso@gmail.com

HP <http://sansobukai.web.fc2.com>

大田貨物裁判

2020年3月16日、大陽液送が配送業務下請けである大田貨物に直接指示出すなど「偽装請負」をしていたとし、大陽液送分会大田貨物班の6人が集団提訴、同年6月30日に第一回公判が行われてから約2年が経ち、2022年5月10日、11日に大阪地裁堺支部304号法廷にて、証人尋問が開かれました。

未だコロナウイルスの影響がある為、傍聴席はソーシャルディスタンスに配慮され21席でした。両日とも原告側の傍聴人として多くの仲間が席を埋めてくれ、大変心強く、証人尋問に挑む事ができました。

5月10日(火)13時15分開廷。この日は、私達原告側の証人尋問及び被告側弁護士による反対尋問が行われました。原告代表として長谷川、福岡氏、そして証人として昨年大陽液送を退職された米田氏の3人が証言台へ。先ず米田氏の尋問が行われ、大陽液送が過去に組合弱体化を狙い下請けを増やしていった経緯などを証言しました。続いて福岡氏の証言では、山亀運送が高压ガス部門から撤退し、その後山亀の運転手とタンクローリーを大田貨物に引き取らせる為、大陽液送の前社長が主体となり関与していた事を証言しました。そして私は、大陽液送配車係による口頭や電話、LINEなどで直接指揮命令をしていた事実、同じ制服にヘルメット、液送所有のタンクローリーを使用し液送の指示のもと同じ仕事をしていたこと、提訴後は偽装を進めていることなど、私達の働き方が請負ではなく派遣であり、それらの実態をふまえ、私達と被告との間の直接契約を認める様、裁判官へ強く訴えました。



翌5月11日(水)前日同様13時15分開廷。被告側の主尋問及び反対尋問が行われました。被告側の証人は、大陽液送の森松部長、大田貨物の大田社長が証言台に立ちました。

被告弁護士による主尋問では、大陽液送と大田貨物は請負契約を結んでおり、派遣ではない事を主張していましたが、全て「はい」か「いいえ」で答えられる様に作られた質問事項での尋問でした。そして反対尋問では原告弁護士である村田弁護士による、鋭い尋問がされ被告証人を困惑させ手応えを感じるほどでした。

この2日間で結審し、後は判決を待つだけですが、裁判官は判決を急いでいる感があり、私達は不安を拭きません。

和解という案も出ていますが、この裁判は直接雇用を求めてのたたかいであり、和解するにしても同一労働同一賃金の観点から均等均衡待遇しかありませんので、なかなか難しいであろうと考えております。和解が成立しなければ、7月12日13時30分大阪地裁堺支部304号法廷にて判決が下されます。

酸素部会関西協議会としては不当判決を抑止する為にも、6月に大阪地裁堺支部前での宣伝行動実施に向け準備を進めております。

判決へ向けこれからも皆様の御支援御協力のほど宜しくお願い致します。

そして傍聴へ来ていただいた皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

大陽液送分会大田貨物班 長谷川達三

5月1日 全国メーデー



須賀川地区

幸栄運輸支部は地元の岩瀬・須賀川地方労連主催の第93回メーデー集会へ参加しました。「義務を果たして権利を主張する」を信念としているため、支部書記長の加藤永二氏は業務に協力し欠席でしたが、プラカードコンテストに向け多忙の中作成したプラカードを託され1名での参加となりました。

まん延防止措置は解除されていますが感染予防対策としてパレードは行わず集会のみでした。、各組織からの発言やメーデーアピール・スローガンを採択し終了しました。

幸栄運輸支部 相澤稔

川崎

第93回川崎メーデーは今回も新型コロナウイルスの影響で残念ですがリアル開催ができず、オンラインとスタンディング参加になりました。



来年こそは新型コロナウイルスが終息しリアル開催を期待します。写真は神奈川県南支部大島書記長とスタンディング参加した模様です。

東進産業分会 須田圭二

堺

5月1日、労働者の祭典「メーデー」が開催されました。

新型コロナウイルスの影響で去年、一昨年と中止していましたが、3年ぶりに開催され会場にはおよそ500人が参加しました。太陽7名、寿5名で参加し、雨で足もとが悪い中、大仙公園を出発し堺市役所まで行進しました。



現在世界ではロシアのウクライナ侵攻が続く中ウクライナ支援を訴えるとともに、新型コロナウイルスの影響で格差が広がる雇用状況の見直しを訴え、私たちの未来の子ども達への充実した暮らしをつかみとるべくこの運動を成功できた事は前進だと思います。

参加された皆さんお疲れ様でした。

太陽液送分会 上出芳浩

東阪神地域

メーデーのはじまりは、1886年5月1日にアメリカ合衆国カナダ職能労働組合連合(後のアメリカ総同盟、AFL)が、シカゴを中心に8時間労働制をかせげ、ストライキを行ったのが起源です。1日12時間から14時間労働が当たり前だった当時「第1の8時間は仕事のために、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間はおれたちの好きなことのために」を目標に行なわれました。



今年のメーデーは3年ぶりに労働者・市民が集まる集会となりました。しかし新型コロナウイルス感染症は収束のめどが見えず、医療や介護などのケア労働者は現在も過酷な労働が続いています。ケア労働者だけでなく、さまざまな職場でコロナの影響を受けています。コロナ関連解雇全国で13万人(厚労省発表)、兵庫県内でも、3千人以上ですがこれは氷山の一角です。倒産・廃業する中小企業も多く、コロナとのたたかいが続いている中、労働者・市民がつどい開催されたメーデーは意義があるものといえます。

テーエス支部尼崎分会からは全員参加する事ができ、定年退職された先輩方3名も参加してくれました。メーデー全体で17団体200名の参加中、建交労27名の参加で大成功に終わりました。

テーエス支部尼崎分会 木田英樹

大分県中央

5月1日10時から、大分県中央メーデーがZOOMでのオンライン開催となり、江藤運輸分会から6名の参加、全体で60名ほどの参加がありました。内容は、ロシアのウクライナ侵攻問題、最低賃金全国一律1,500円等。また、各労組の現状報告、活動目標等の発表もあり活発な会議となり、改めて仲間との団結を感じる事ができ、無事成功で終わることができました。

コロナの影響によりオンラインでの開催となったことで、高齢の方や県内でも遠方で普段参加が困難な組合員も気楽に参加できるようになってきたとのいい報告もありました。

江藤運輸分会 村上博昭

福岡

5月1日のメーデーに今年は九州液送分会から3名参加してきました。私自身は初参加で、当日10時に会場に入ると沢山参加者がいて人の多さにびっくりしました。パレード前、各部会の代表が壇上で現在取り組んでいる事を話されてました。福岡トラック部会からは富田実行委員長が演説しました。

福岡市中央区の警固公園を出発し、警察官の交通整理の下およそ30分程度街中でパレードを行い最後はトラック部会で集まってから解散しました。



今回初めて参加してメーデーの事を知るいいきっかけになりました。来年からも率先して参加していきたいと思います。

九州液送分会 中島達徳